

2019年度 愛知学泉大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
2101140	美術史 Art History	加藤 万也	基礎	2	選択	4年 前期
科目の概要						
<p>自立した社会人として、自らの可能性を高めて社会に貢献する姿勢を身につけるために、芸術分野からのアプローチを行うのがこの授業です。現代のライフスタイルを考える時、そこには実に様々な先人の思考や感性が潜んでいることを知ることができます。それを体得するひとつの機会として、芸術を理解することは意義深いものです。そこで美術史の中でも特に、20世紀のアーティストが「何を思考し、どこに向かおうとしたのか」を、芸術的視点および歴史的視点を織り交ぜながら、時代感覚や社会性について解説していきます。芸術が社会に対しどのような関わりをし、どのような影響を及ぼしたかを見つめていきます。</p>						
学修内容			到達目標			
①美術作品の見方を理解する。 ②作品の背景を読み取るための見方を獲得する。 ③時代的な意識と作品との関連を知る。			①美術作品の見方を理解できる。 ②作品の背景を読み取るための見方を獲得できる。 ③時代意識と作品との関連を知ることができる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例				
前に踏み出す力	主体性	作品の中に込められた意味を、自ら考えて見出そうとする。				
	働きかけ力					
	実行力	講義後の小テストで高得点を取得できるよう、講義メモをしっかりとる。				
考え抜く力	課題発見力	講義の中で気になったことをそのままにしないで、講義後に質問をする。				
	計画力					
	創造力	講義以外の予習復習において、いろいろな情報を収集する。				
チームで働く力	発信力	小テストにおいて、内容の要点を絞り明確に記述する。				
	傾聴力	先入観を持たずに講義を聴き、理解に至るよう内容把握に努める。				
	柔軟性					
	状況把握力					
	規律性	真摯な態度で講義を聴く。				
	ストレスコントロール力					
テキスト及び参考文献						
テキスト: 使用しない 参考文献: 毎回の授業にて配布するワークシートを使用します						
他科目との関連、資格との関連						
特になし						
学修上の助言			受講生とのルール			
社会事情に日頃から意識を向けるようにしてください。美術館などで予習・復習として、美術作品を直接鑑賞することが望ましいです。			講義開始後の無断入退室は禁止。 居眠りや私語が甚だしい場合は、欠席とする。 欠席(実習等を除く)4回以上で、単位認定しない。			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
筆記試験	50	①	✓	①美術および各作品が理解できている。 ②作品の背景を読み取るための考えを獲得できている。 ③時代意識と作品との関連を知ることができている。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
		⑤		
小テスト	40	①	✓	・毎週の確認テスト(小テスト)の点数を平均して判定する。 ①授業内容を理解できているか確認する。 ②授業内で強調した点を中心に出題する。 ③時代意識と作品との関連を知ることができる。 ・出題範囲は、過去の授業の確認および、その日の授業内容とする。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
		⑤		
レポート		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
成果発表 (口頭・実技)		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
作品		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	以下の項目については、受講態度や復習ノートの提出によって評価する。 (主体性)指示がなくてもメモを取り理解を深めることができる。 (実行力)常に集中して受講することができる。 (課題発見力)受講目的を明確にし、到達点を自身で振り返り点数化できる。 (創造力)アーティストの発想を理解し、多角的かつ複眼的な記述ができる。 (発信力)分からない内容がある時は、すすんで質問することができる。 (傾聴力)要点をメモしながら聴いている。 (規律性)礼節を保って受講している。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
		⑤		
総合評価 割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)の基準
講義15回に毎回出席し、期末試験および確認テストにおいて優秀な点を獲得することができ、復習ノートがしっかり作成されている者をA(優)評価とする。 また上記に加え、授業外での予習・復習において、学外学習(美術館等での個人学習)を行うことができたものは、S(秀)評価とする。	講義15回において必要数の出席をし、期末試験および確認テストで平均的な点を獲得することができ、復習ノートが作成されている者をB(良)評価とする。 規定回数の出席があっても、期末試験および確認テストでの得点が平均的、かつ復習ノートの作成不良の場合はC(可)評価とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	<オリエンテーション> 現代美術鑑賞のために必要な脳構造を知り、20世紀美術概要を理解する。	講義	20世紀美術概要を理解でき、復習ノートを作成できる。	(予習)「現代美術」と言われる作品を、事前にリサーチしておく (復習)授業での概要を振り返り、作品画像を検索してリサーチする	120	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2週 /	<第二次大戦前> 20世紀初頭のラディカリズム、未来派、立体派など数々の「～派」がとった姿勢を検証し、理解する。	講義小テスト	20世紀初頭の芸術運動を理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習)前回授業での指定リサーチを行う (復習)講義に関連した内容を文献やネットで調べ、「～派」の特徴についてノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3週 /	<第二次大戦下> 戦争に対するアーティストの意思と、表現について考察し、理解する。	講義+テスト	第二次大戦下の社会状況と芸術との関連を理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習)前回授業での指定リサーチを行う (復習)講義に関連した内容を文献やネットで調べ、「戦争下のアーティスト」という内容でノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4週 /	<抽象表現主義> 抽象芸術、特にアメリカのアートがいかに台頭してきたかを探り、抽象表現主義の意義を理解する。	講義+小テスト	抽象表現主義を理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習)前回授業での指定リサーチを行う (復習)講義に関連した内容を文献やネットで調べ、「抽象表現主義を系統別に分類」してノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5週 /	<ポップアート> アンディー・ウォーホルを中心に、大衆と芸術の関係について理解する。	講義+小テスト	ポップアートと社会性を理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習)前回授業での指定リサーチを行う (復習)講義に関連した内容を文献やネットで調べ、「ポップアート」と時代背景の関係をノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6週 /	<ヌーヴォー・リアリズム> フランスを中心にして起こった新しい芸術運動の指標と理想について考察し、理解する。	講義+小テスト	新しい芸術運動の目的を理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習)前回授業での指定リサーチを行う (復習)講義に関連した内容を文献やネットで調べ、フランス文化特有の美意識と芸術運動についてノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7週 /	<ミニマル・アート1> ミニマル・アートが発生するに至った時代背景を検証し、その思考性と哲学性を理解する。	講義+小テスト	ミニマルアートとは何かを理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習)前回授業での指定リサーチを行う (復習)講義に関連した内容を文献やネットで調べ、「建築とミニマルアートの関係」についてノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8週 /	<ミニマル・アート2> 抽象表現主義をより発展させた形での、ミニマルな平面芸術を考察し、理解する。	講義+小テスト	平面的なミニマルアートを理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習)前回授業での指定リサーチを行う(復習)講義に関連した内容を文献やネットで調べ、「抽象表現主義との差異」をノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	<コンセプチュアル・アート> ミニマルからさらに発展した、思考のみによって成立させようとしたアートの足跡をたどることで、理解を深める。	講義＋小テスト	概念芸術の思想性を理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習) 前回授業での指定リサーチを行う (復習) 講義に関連した内容を文献やネットで調べ、概念芸術の特殊性についてノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10週 /	<アースワーク> 大地を素材にした巨大で斬新な芸術表現の意義を理解する。	講義＋小テスト	ランドアートの意義を理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習) 前回授業での指定リサーチを行う (復習) 講義に関連した内容を文献やネットで調べ、巨大化するアートの象徴制についてノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11週 /	<アルテ・ポーヴェラ> イタリアでおこった、現実を捉え直すための日常素材を用いたチープなアートを考察し、理解を深める。	講義＋小テスト	アルテポーヴェラの内容を理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習) 前回授業での指定リサーチを行う (復習) 講義に関連した内容を文献やネットで調べ、アルテポーヴェラを軸にイタリア文化の特異性をノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12週 /	<もの派> 日本版アルテポーヴェラと言われるもの派の、日本のアートの独特の思考や視点を理解する。	講義＋小テスト	もの派の芸術性を理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習) 前回授業での指定リサーチを行う (復習) 講義に関連した内容を文献やネットで調べ、日本人特有の歴史的「美意識」についてノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13週 /	<ニューペインティング> ニューペインティングの時代とアートマーケットについて、経済的視点から考察し、理解を深める。	講義＋小テスト	80年代の芸術を理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習) 前回授業での指定リサーチを行う (復習) 講義に関連した内容を文献やネットで調べ、1980年代のアートマーケットの構造についてノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14週 /	<ポストモダン1> シミュレーションイズムやデジタルアートなど、時代表現の多様性について、現状と関連づけて理解する。	講義＋小テスト	現代の芸術がどこに向かおうとしているのかを理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習) 前回授業での指定リサーチを行う (復習) 講義に関連した内容を文献やネットで調べ、90年代以降の芸術が向かっている方向性をノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15週 /	<ポストモダン2> 海外、日本のアーティストの、もっとも現代的な表現を見ながら、時代性における芸術の意味を考え、理解を深める。	講義＋小テスト	芸術の真の意味を理解し、確認テストで平均点レベルの点数獲得ができる。	(予習) 前回授業での指定リサーチを行う (復習) 講義に関連した内容を文献やネットで調べ、コンテンポラリーであることの意義をノートにまとめる	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力